

平成 22 年度 大栄経理学院

第 125 回日商簿記検定試験 模範解答

2 級

商業簿記

第 1 問 (20 点)

	仕		訳	
	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
1	役員賞与引当金繰入	300,000	役員賞与引当金	300,000
2	当 座 預 金	2,024,000	売買目的有価証券	2,008,000
			有 価 証 券 利 息	4,000
			有 価 証 券 売 却 益	12,000
3	当 座 預 金	100,000	買 掛 金	100,000
4	備 品	4,880,000	当 座 預 金	4,880,000
5	売 掛 金	960,000	受 託 販 売	816,000
			受 取 手 数 料	144,000

仕訳 1 組につき 4 点 合計 20 点 (配点は当学院の予想です)

第 2 問 (20 点)

残 高 試 算 表

借 方		勘 定 科 目	貸 方	
平成22年1月31日	平成21年12月31日		平成21年12月31日	平成22年1月31日
466,200	464,000	当 座 預 金		
116,500	115,000	受 取 手 形		
237,500	218,000	売 掛 金		
87,000	87,000	繰 越 商 品		
300,000	300,000	備 品		
		支 払 手 形	100,000	80,000
		買 掛 金	176,000	155,000
		借 入 金	200,000	250,000
		未 払 家 賃	600	
		貸 倒 引 当 金	6,000	2,000
		備品減価償却累計額	177,120	59,040
		資 本 金	524,280	524,280
		売 上		485,000
245,000		仕 入		
100,000		給 料		
1,200		支 払 家 賃		
1,920		固 定 資 産 売 却 損		
1,555,320	1,184,000		1,184,000	1,555,320

1 つにつき 2 点 合計 20 点 (配点は当学院の予想です)

第 3 問 (20 点)

損 益 計 算 書
平成 21 年 1 月 1 日 ~ 平成 21 年 12 月 31 日

費 用	金 額	収 益	金 額
期首商品棚卸高	(249,000)	売上高	(4,645,000)
当期商品仕入高	(3,586,000)	期末商品棚卸高	(291,000)
貸倒引当金繰入	(10,500)	受取手数料	(18,000)
減価償却費	(156,000)	受取利息	(4,800)
営業費	(436,000)	/	
手形売却損	(27,000)		
当期純(利益)	(494,300)		
	(4,958,800)		(4,958,800)

貸 借 対 照 表

平成 21 年 12 月 31 日

資 産	金 額	負 債 ・ 純 資 産	金 額
現金預金	(578,000)	支払手形	(201,000)
受取手形	(380,000)	買掛金	(292,000)
売掛金	(270,000)	(未払) 費用	(12,000)
貸倒引当金	(19,500) (630,500)	資本金	2,000,000
商品	(291,000)	利益準備金	112,000
短期貸付金	(400,000)	繰越利益剰余金	(549,300)
(前払) 費用	(36,000)	/	
(未収) 収益	(22,800)		
建物	(1,200,000)		
減価償却累計額	(432,000) (768,000)		
備品	(800,000)		
減価償却累計額	(360,000) (440,000)		
	(3,166,300)		(3,166,300)

1 つにつき 2 点 合計 20 点 (配点は当学院の予想です)

工 業 簿 記

第 4 問 (20 点)

問 1

	仕		訳	
	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
(1)	材 料	2,100,000	買 掛 金	2,100,000
(2)	仕 掛 品	1,630,000	材 料	1,630,000
(3)	仕 掛 品 製 造 間 接 費	1,124,200 26,600	賃 金 ・ 給 料	1,150,800
(4)	製 造 間 接 費	940,000	賃 金 ・ 給 料	940,000
(5)	仕 掛 品	3,212,000	製 造 間 接 費	3,212,000
(6)	製造間接費配賦差異	188,000	製 造 間 接 費	188,000

問 2

予 算 差 異	操 業 度 差 異
54,500 円 (借方・貸方)	242,500 円 (借方・貸方)

問 1 仕訳 1 組につき 3 点

問 2 各 1 点 合計 20 点

(配点は、当学院の予想です)

第 5 問 (20 点)

(1)

総 合 原 価 計 算 表

(単位：円)

	M	T	加 工 費	合 計
月初仕掛品	(140,000)		212,850	352,850
当月投入	(800,000)	186,400	2,087,250	3,073,650
合 計	(940,000)	186,400	2,300,100	(3,426,500)
月末仕掛品	(100,000)	()	(126,500)	(226,500)
完 成 品	(840,000)	(186,400)	(2,173,600)	(3,200,000)

(2)

1 個当たりの単位原価 = 4,000 円 / 個

1 箱当たりの単位原価 = 20,000 円 / 箱

1 つにつき 2 点 合計 20 点 (配点は当学院の予想です)

【 2 級解説】

第 1 問

1. 決算後の定時株主総会で支給決議する役員賞与については、期末において、その支給見込み額を役員賞与引当金に計上する。
2. 売買目的有価証券の帳簿価額は、前期末において時価に評価替えされている。

$$\text{帳簿価額} : ¥2,000,000 \times \frac{\text{@ ¥100.40}}{\text{@ ¥100}} = ¥2,008,000$$

$$\text{売却価額} : ¥2,000,000 \times \frac{\text{@ ¥101}}{\text{@ ¥100}} = ¥2,020,000$$

$$\text{端数利息} : ¥2,000,000 \times 3.65\% \times \frac{20\text{日}}{365\text{日}} = ¥4,000$$

4. 固定資産の取得時に値引きや割戻しがあれば、取得原価から控除する。

第 2 問

各仕訳帳の仕訳は以下の通りである。消去している科目は二重仕訳なので集計しないこと。

(1) 当座預金出納帳

(当 座 預 金)	555,000	(売 上)	180,000
		(売 掛 金)	176,500
		(受 取 手 形)	68,500
		(備 品)	80,000
		(借 入 金)	50,000
(仕 入)	60,000	(当 座 預 金)	552,800
(買 掛 金)	116,000		
(支 払 手 形)	75,000		
(備 品)	200,000		
(支 払 家 賃)	1,800		
(給 料)	100,000		

(2) 仕入帳より

(仕 入)	245,000	(当 座 預 金)	60,000
		(買 掛 金)	150,000
		(支 払 手 形)	35,000

(3) 売上帳より

(当 座 預 金)	180,000	(売 上)	485,000
(売 掛 金)	250,000		
(受 取 手 形)	55,000		

(4) 支払手形記入帳より

(仕 入)	35,000	(支 払 手 形)	55,000
(買 掛 金)	20,000		

(5) 受取手形記入帳より

(受 取 手 形)	85,000	(売 上)	55,000
		(売 掛 金)	30,000

普通仕訳帳より

1/ 1 (未 払 家 賃)	600	(支 払 家 賃)	600
5 (買 掛 金)	20,000	(売 掛 金)	20,000
10 (買 掛 金)	15,000	(受 取 手 形)	15,000
20 (当 座 預 金)	80,000	(備 品)	200,000
(備品減価償却累計額)	118,080		
(固定資産売却損)	1,920		
25 (貸 倒 引 当 金)	4,000	(売 掛 金)	4,000

第 3 問

本支店合併財務諸表の作成は、 未達事項の整理、 決算整理、 合併整理の順で行う。

() 未達事項

未達事項の整理後、照合勘定(本店勘定・支店勘定)と内部取引勘定(本店より仕入勘定・支店へ売上勘定)の金額一致を確認する。

(1) (現 金 預 金)	60,000	(本 店)	60,000
(2) (本 店 よ り 仕 入)	62,500	(本 店)	62,500
(3) (支 店)	29,000	(売 掛 金)	29,000
(4) (買 掛 金)	28,000	(本 店)	28,000
(5) (営 業 費)	21,000	(支 店)	21,000

支 店		本 店	
T/B 1,037,500 (3) 29,000	(5) 21,000	← 1,045,500 →	T/B 895,000 (1) 60,000 (2) 62,500 (4) 28,000
本店より仕入		支店へ売上	
T/B 1,362,000 (2) 62,500	← 1,424,500 →		T/B 1,424,500

() 期末修正事項

決算整理は個別の財務諸表作成時と同様に行えばよい。本店、支店別に行ってもよいが、最終的に合算するためまとめて行うほうが効率的である。

1. 売上原価の算定について

(仕 入)	265,000	(繰 越 商 品)	265,000
(繰 越 商 品)	328,500 ^{*1}	(仕 入)	328,500

^{*1} ￥102,000 + ￥164,000 + ￥62,500(未達商品) = ￥328,500

2. 貸倒引当金について

(貸倒引当金繰入)	10,500 ^{*1}	(貸 倒 引 当 金)	10,500
-------------	----------------------	---------------	--------

^{*1} 売 掛 金 : ￥184,000 - ￥29,000 + ￥115,000 = ￥270,000

受取手形 : ￥221,000 + ￥159,000 = ￥380,000

(￥270,000 + ￥380,000) × 3% - (￥6,000 + ￥3,000) = ￥10,500

3. 減価償却について

(減 価 償 却 費)	156,000	(建物減価償却累計額)	36,000 ^{*1}
		(備品減価償却累計額)	120,000 ^{*2}

*1 本店 : (¥ 700,000 - ¥ 70,000) ÷ 30 年 = ¥ 21,000

支店 : (¥ 500,000 - ¥ 50,000) ÷ 30 年 = ¥ 15,000

*2 本店 : (¥ 450,000 - ¥ 45,000) ÷ 6 年 = ¥ 67,500

支店 : (¥ 350,000 - ¥ 35,000) ÷ 6 年 = ¥ 52,500

4. 短期貸付金について

(未 収 利 息)	4,800	(受 取 利 息)	4,800
-------------	-------	-------------	-------

*1 $¥ 400,000 \times 3.6\% \times \frac{4 \text{ カ月}}{12 \text{ カ月}} = ¥ 4,800$

5. 営業費について

(前 払 営 業 費)	36,000	(営 業 費)	36,000
(営 業 費)	12,000	(未 払 営 業 費)	12,000

6. 手数料について

(未 収 手 数 料)	18,000	(受 取 手 数 料)	18,000
---------------	--------	---------------	--------

< 合併整理仕訳 >

合併整理は、以下の 3 つである。照合勘定と内部取引勘定は合併財務諸表に表示しないため消去する。
また、支店期末商品に含まれる内部利益も財務諸表上除いて表示する。

1. 照合勘定の相殺消去

(本 店)	1,045,500	(支 店)	1,045,500
---------	-----------	---------	-----------

2. 内部取引の相殺消去

(支 店 へ 売 上)	1,424,500	(本 店 より 仕 入)	1,424,500
---------------	-----------	----------------	-----------

3. 内部利益の整理

(1) 期首商品に含まれる内部利益

支店の期首商品のうち本店からの仕入れ分には内部利益が含まれる。この内部利益は帳簿上「繰延内部利益」勘定で繰り越されているため、この金額を控除すればよい。

整理前試算表の繰延内部利益勘定より : ¥ 16,000 P/L の期首商品棚卸高、B/S 繰延内部利益から
控除

(2) 期末商品に含まれる内部利益

支店の期末商品のうち本店からの仕入分には内部利益が含まれる。未達商品も本店からの仕入分なので含めて計算すること。

$(¥ 125,000 + ¥ 62,500) \times \frac{0.25}{1.25} = ¥ 37,500$ P/L 期末商品棚卸高、B/S 繰越商品から控除

P/L 期首商品棚卸高 : ¥ 265,000 - ¥ 16,000 = ¥ 249,000

P/L 期末商品棚卸高 : ¥ 328,500 - ¥ 37,500 = ¥ 291,000

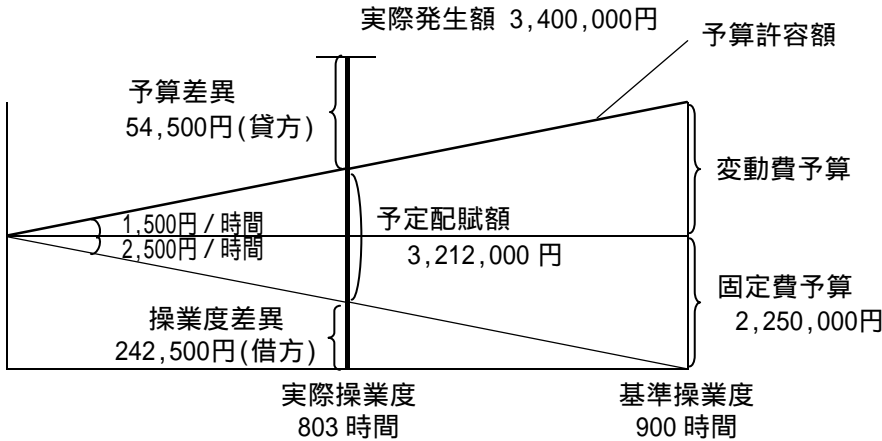
B/S 商品 : ¥ 328,500 - ¥ 37,500 = ¥ 291,000

第 4 問

問 1

- (2) 素材は直接材料費なので「仕掛品」勘定に振り替える。
消費額：@400 円 × 1,200 個 + @500 円 × 2,300 個 = 1,630,000 円
- (3) 直接工の直接作業に対する賃金は直接労務費であり、間接作業に対する賃金は間接労務費である。
直接労務費：@1,400 円 × 803 時間 = 1,124,200 円
間接労務費：@1,400 円 × 19 時間 = 26,600 円
- (4) 間接工の作業に対する賃金はすべて間接労務費である。
間接労務費：900,000 円 - 140,000 円 + 180,000 円 = 940,000 円
- (5) 予定配賦率： $\frac{43,200,000 \text{ 円}}{10,800 \text{ 時間}} = 4,000 \text{ 円/時間}$
予定配賦額：4,000 円/時間 × 803 時間 = 3,212,000 円
- (6) 製造間接費配賦差異：3,212,000 円 - 3,400,000 円 = 188,000 円(借方差異)

問 2



予算差異：1,500 円/時間 × 803 時間 + 2,250,000 円 - 3,400,000 円 = 54,500 円(貸方差異)
操業度差異：(803 時間 - 900 時間) × 2,500 円/時間 = 242,500 円(借方差異)

第 5 問

(1) 原価計算表の作成

素 材 M			
140,000円	月初 150個	完成 150個	140,000円
	投入	650個	700,000円
800,000円	800個	仕損 50個	-
		月末 100個	100,000円

月末仕掛品原価：800,000円 × $\frac{100 \text{ 個}}{800 \text{ 個}}$ = 100,000円

完成品原価：140,000 円 + 700,000 円 = 840,000 円

加 工 費 (数量は完成品換算量)			
212,850円	月初 75個	完成 75個	212,850円
	投入	725個	1,960,750円
2,087,250円	825個	仕損 50個	-
		月末 50個	126,500円

月末仕掛品原価：2,087,250円 × $\frac{50 \text{ 個}}{825 \text{ 個}}$ = 126,500円

完成品原価：212,850 円 + 1,960,750 円
= 2,173,600 円

梱包財 T は、完成品に対してのみ発生するため当月発生額 186,400 円を全額完成品原価に含めればよい。

- (2) 完成品 1 個当たりの単位原価 : $3,200,000 \text{ 円} \div 800 \text{ 個} = 4,000 \text{ 円/個}$
完成品 1 箱当たりの単位原価 : $4,000 \text{ 円/個} \times 5 \text{ 個} = 20,000 \text{ 円/箱}$